権業者ノ企図ニ対シテモ同様取扱ヒノ考ヘナリ且余自身モ貴国ニ在任中毎年少クモ一回位ハ我極東地方ヲ視察シ種々ノ要求註文乃至欠点等ノ研究ヲ重ヌル積リナリ云々ト語リ尚本官カ試ミニ露側カ現ニ輸入ヲ殆ント禁止シアル本邦野菜及ヒ果物等ノ輸入許可方針如何ヲ聞キタルニ対シ「アハコハ我カ経済状態ノ回復ニ従ヒ漸次緩和スヘキモ何分対外貿易「バランス」ノ関係上相当考慮ヲ要スト語リ居タリ

本信写送付先　莫斯科、哈府、哈市

事項八　日ソ外交関係雑件

二一一　一月三日　在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

チチエリンハスターリンノ演説ニ言及シ日本トノ親善関係ヲ強調セル件

付記一　大正十四年十二月十四日幣原外務大臣ヨリ在ソ連邦、在米各大使、在中国公使、在浦潮総領事各宛合第二二九号
ソヴィエト連邦ノ極東政策ニ関スル声明書公表ノ件

二　大正十四年十二月十八日幣原外務大臣ヨリ在本邦ソ連邦大使宛覚書
ソ連邦政府ノ極東政策ニ関スル件

三　大正十四年十二月二十三日在ハルビン天羽総領事ヨリ幣原外務大臣宛機密第二二三号
コップ大使声明ノ反響ニ関シ申進ノ件

四　大正十五年二月一日在本邦中国公使ノ出淵次官来訪談要領
日露間「アグリーメント」交渉説ニ関スル件

五　満州ニ関スル日露新協定問題（大正十五年一月、亜細亜局第一課調）

第二号

共産党大会ニ於ケル「スターリン」ノ演説ノ大要ハ客年往電第五七一号ノ通ナル処同演説速記録ヲ検スルニ日本ニ就キ一言ストテ左記ノ一節アリ右ニ関シ二日本使ヲ来訪セル「チチェーリン」ハ特ニ之ニ言及シ日本トノ親善ハ当国政界ノ希望ニシテ政府ハ此方針ニ依リテ日本トノ関係ヲ発達セシムルコトニ力ム可シト述ヘタリ

欧州ニ於テハ支那ノ革命運動ヲ煽動スル「ソウィエット」連邦ト之ニ対抗シテ支那ヲ自己ノ勢力下ニ置カントスル日本トノ間ニ衝突起ル可シトナスモノアリ支那革命ノ効果ニシテ今後益々盛ナル可ク東西為政者ニシテ之ヲ無視スルモノハ存スヘシ現在ノ支那ハ独立又ハ統一前ノ米国独逸及伊国ト同一ノ状態ニ在ルモノニシテ正義ハ支那革命ニ在リ是レ「ソ」連邦カ支那ノ革命及同国民ノ自由運動ニ同情スル所以ナリ余ハ日本モ亦此運動ノ軽視スヘカラサルコトヲ諒解スルニ至ル可キヲ期ス張作霖ノ滅亡シツツアル所以ハ彼カ国民運動ノ力ヲ解セス且其ノ政策ノ基礎ヲ日「ソ」ノ衝

突両国関係ノ悪化ニ置クカ為ナリ吾人ハ何等日本トノ関係ヲ荒立ツル要ナキノミナラス日本トノ接近ハ我利益ナルヲ以テ満州ニ於ケル如何ナル督軍モ其ノ政策ヲ日「ソ」ノ衝突ニ置クモノハ必ス倒レ日「ソ」関係ノ改善両国ノ接近ニ反対ナルモノハ久シカラサル可シ云々

（付　記一）

大正十四年十二月十四日幣原外務大臣ヨリ在ソ連邦、在米各大使、在中国公使、在浦潮総領事各宛

ソヴィエト連邦ノ極東政策ニ関スル声明書公表ノ件

合第二二九号

十四日在本邦「ソヴィエト」連邦大使本大臣ヲ来訪シ別電合第二三〇号ノ通声明書ヲ手交シタリ右声明書ハ同日公表セリ

（在米大使宛）在英在伯各大使ニ転電シ在英大使ヲシテ在欧各大使在瑞典、波蘭、墺地利、「チェッコ」、羅馬尼亜各公使及「リガ」ニ転電セシメラレタシ

（在支公使宛）上海、漢口、天津、広東、奉天、哈爾賓ヘ転電ヲ請フ

（在浦潮総領事宛）「ハバロフスク」、「ブラゴヴェシチェンスク」、「アレキサンドロフスク」ヘ転電アリタシ

合第二三〇号（別電）

大正十四年十二月十四日コップ大使持参

Having in view the rumours, suspecting the peaceful policy of the U.S.S.R. and aiming to prejudice the development of friendly relations between the U.S.S.R. and Japan, I have the honour to declare in the name of my Government that the U.S.S.R. does not pursue in the Far East any aggressive plans and does not intend to menace anyway the interests of Japan.

（右訳文）

昨今世上往々ニシテソヴィエト社会主義共和国連邦ノ平和的政策ヲ疑ヒ且ソヴィエト連邦ト日本トノ間ノ友好的関係ノ発展ヲ阻害セシムコトヲ目的トスル風説行ハルルニ鑑ミ本使ハ本国政府ノ名ニ於テソヴィエト連邦カ極東ニ於テ何等侵略的計画ヲ有セサルコト及何等日本ノ利益ヲ侵迫セムトスル意図ナキコトヲ宣言スルノ光栄ヲ有ス

（付　記二）

大正十四年十二月十八日幣原外務大臣ヨリ在本邦ソ連邦大使宛覚書　ソ連邦政府ノ極東政策ニ関スル件

The Minister for Foreign Affairs presents his compliments to His Excellency the Ambassador of the U.S.S.R. and has the honour to enclose herewith a memorandum regarding the declaration of policy of the U.S.S.R. Government in the Far East.

December 18, 1925.

MEMORANDUM.

By a Memorandum of December 14, 1925, His Excellency the Ambassador of the U.S.S.R. was so good as to communicate to the Japanese Government the declaration of his Government in disavowal of any aggressive design in the Far East, or of any intention of menacing the interests of Japan. In taking note of that communication with much gratification, the Japanese Government desire to express their high appreciation of the friendly sentiments by which the declaration was actuated.

Ministry of Foreign Affairs,

December 18, 1925.

（付　記三）

大正十四年十二月二十三日在ハルビン天羽総領事ヨリ幣原外務大臣宛機密第二二三号

コップ大使声明ノ反響ニ関シ申進ノ件

機密第二二三号　（大正十五年一月七日接受）

大正十四年十二月二十三日

在哈爾賓

総領事　天羽　英二（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

「コップ」大使声明書ノ反響ニ関スル件

貴電合第二二九号「コップ」大使ノ声明書ハ東方通信ニ依リ当地ニ電報セラレ当地各露字新聞ニ掲載セラレタルモ之ニ対シテハ各白、赤両系新聞ハ何等ノ論評ヲ加ヘス一般ニハ何等ノ反響ナシ

昨二十二日当館ニ於ケル「ヤンソン」商務参事官歓迎宴会席上当地「グランド」労農総領事ハ会談中之ニ言及シ「コップ」ノ声明ハ一九一八年ノ労農側ノ声明ヲ繰返セルモノニ過キス且ツ当地白系ノモノモ労農側カ当地方ニ於テ日本側ニ対シ侵略的行動ニ出ツルカ如キハ夢想シ居ラサルカ故ニ

一般ニ何等ノ注意ヲ喚起シ居ラスト洩ラセリ

右御参考迄

本信写送付先

在支那公使　在奉天総領事

（付　記四）

大正十五年二月一日在本邦中国公使ノ出淵次官来訪談要領

日露間「アグリーメント」交渉説ニ関スル件

大正十五年二月一日在本邦支那公使出淵次官ヲ来訪シ本国政府ノ通報ニ依レハ「コップ」及帝国外務省間ニ「アグリーメント」出来ツツアリトノ事ナルヲ以テ右真相ヲ確ムル為参上シタル次第ナリト述ヘタルニ付次官ハ斯ルコトノ絶対ニ無キコトハ責任ヲ以テ明瞭ニ断言ス尤モ支那政府カ何故ニ斯ル通報ヲ為シタルヤヲ想像スレハ最近「コップ」カ「ジャパン、アドヴァタイザー」ニ日露支提携ノ「ステートメント」ヲ出シタル事アリ右ハ相当世間ノ注意ヲ引ケル為之カ本トナリシモノナラント答ヘタル処汪公使ハ自分モ然ラント思ヒシモ為念真相ヲ確ムル為メ参上シタルニ過キスト述ヘテ引取リタリ

（大正十五年二月一日谷課長述土田記）

（付　記五）

満州ニ関スル日露新協定問題

（大正十五年一月、亜細亜局第一課調）

一、最近露国ノ対日交渉経緯

客年ノ洮斉線問題乃至最近ノ東支鉄道ヲ中心トスル露支ノ紛争ニ関連シテ現ハレタル露国ノ対満州政策ヲ見ルニ大要之ヲ(イ)南北満州ニ於ケル日露両国ノ権利利益相互尊重ニ関スル主張及(ロ)満州ニ関スル日露支殊ニ日露両国協定ニ対スル希望ノ二ニ分チ得ヘキ処(イ)ノ日露間満州ニ於ケル権利利益相互尊重ノ主張ハ結局同地方ニ於ケル日露両国ノ勢力範囲復活惹テハ露国ニ依ル東支鉄道護路軍ノ恢復ヲモ予想シ居リ而シテ(ロ)ノ日露支殊ニ日露協定ノ希望ハ之ニ依リテ右(イ)ノ主張ヲ達成セムトスル希望ヲモ包含スルモノニシテ最近洮斉線問題ニ関連シ露国ハ此ノ政策ノ一端ヲ先ツ満州ニ於ケル鉄道問題トシテ我カ方ニ表明セシカ右日露協定提議ハ他面寧ロ露国ノ極東政策乃至其ノ世界政策ノ一部トシテ考慮セルモノト観測セラル今前記(イ)(ロ)ノ二問題ニ関シ客年来我カ方ト露国側トノ間ニ行ハレタル屢次ノ応酬並「ステートメント」等ニ付以下其ノ主ナル点ヲ摘記スヘシ

甲、南北満州ニ於ケル日露両国ノ権利利益相互尊重問題

（勢力範囲復活問題）ニ関スルモノ

(イ)大正十四年三、四月ノ交在北京露国大使「カラハン」ハ在支芳沢公使及帝国公使館員ニ対シ日本カ条約尊重ヲ口ニシナカラ実ハ北満ニ於ケル露国ノ勢力範囲ニ食入リツツアルハ甚タ不都合ニシテ洮斉線敷設ノ如キハ其ノ一例ナリトテ苦情ヲ申出テタルコト一再ナラス右ニ対シテハ其ノ都度同公使及館員ヨリ旧露帝政時代ノ所謂勢力範囲ナルモノハ既ニ消滅シ居ル旨並洮斉線ノ敷設ハ東支鉄道ノ利益ヲ侵害スルモノニ非ス東支満鉄間ノ運賃問題等ニ付テハ日露共存共栄ノ方針ニ依リ適宜協定ノ途アルヘキ旨ヲ可然説明スル所アリタリ

(ロ)大正十四年四月後藤子爵哈爾賓旅行ノ際洮斉線問題ニ関シ東支鉄道「イワノフ」長官ヨリ洮斉線ノ敷設ハ何等経済上ノ価値ナク必スヤ日本ノ対軍事政策ヨリ出テタルモノト認メラルル処此ノ種鉄道カ露国ノ勢力圏内ニ食入ルコトハ断シテ承認シ難ク延テハ日露細目協定ノ成立ニモ影響スルナキヲ保セス云々ト苦情ヲ申出ツル所アリタルニ依リ同子爵ハ帰朝後同長官宛私信（亜細亜局ニテ起草）ヲ以テ其後本件ニ関シ張作霖満鉄外務省及陸軍側等各方面ニ就キ問合セタルカ同鉄道ハ何等軍事的企図ニ基クモノニ非ス北満開発ノ目的ヲ有スル純然タル経済的鉄道ナルコト明トナレリトテ同線敷設ノ暁ニハ東支満鉄共ニ同線ニ営養セラレ利益ヲ受クルコトトナルヘク而テ日露支三国関係鉄道ノ運輸連絡等ニ関シテハ関係鉄道当事者ニ於テ各々共存共栄ノ趣旨ニ依リ協調スルコト可然旨説明シタリ

(ハ)大正十四年五月二十二日在本邦露国大使「コップ」来省幣原大臣ニ対シ洮斉線ノ敷設ハ北満州ニ於ケル露国ノ権利利益殊ニ東支鉄道ヲ脅威スル惧アリト思考スル旨申出テタルニ依リ幣原大臣ヨリ旧露国帝制時代ニハ日露ノ間ニ於テ秘密協定ニ依リ満州ニ於ケル日露ノ勢力範囲ヲ定メタルコトアルモ如斯他国ノ領土ニ於テ外国カ勢力範囲ノ協定ヲ為スカ如キコトハ現在ノ事態ハ之ヲ許サス殊ニ華府会議以来列国ハ此主義ヲ認メサルニ至リタル次第ナルヲ以テ日露両国ハ今後旧キ勢力範囲ノ如キモノヲ断念シ共存共栄ノ主義ニ基キ相協調スルノ方針ヲ以テ進マサルヘカラストテ洮斉線ノ敷設ニ

依リ東支満鉄共ニ利益ヲ得ヘキコト並同線敷設後満鉄東支間ニ於テ運賃等ニ関シ協定ノ途アルヘキ事等ヲ説示シタル処同大使ハ洮斉線敷設問題自身ニ付テハ更ニ自説ヲ縷述スル所アリタルモ旧時ノ勢力範囲復活ヲ非トスル点ニ付テハ全然同感ノ意ヲ表シタリ

（註、如斯「コップ」ハ勢力範囲復活ヲ非トスル点ニ同感ノ意ヲ表シタルモ「チチェリン」等ノ言ニ徴スレハ未タ之ヲ以テ露国カ本件ヲ全然断念セリトハ解シ得サルカ如シ）

(二)大正十四年十月「カラハン」ヨリ在露田中大使ニ対シ日露支三国会議開催ノ件提議アリタル際（後段乙ノ(イ)参照）帝国政府ハ同大使宛訓電中ニ於テ「我カ方トシテハ支那主権尊重ノ立場ヨリ往年帝政時代ノ勢力範囲ヲ再現セシメムトスルカ如キ何等計画ニ同意スルヲ得サル」次第ナルコトヲ明ニシタリ

(ホ)大正十四年十二月張郭戦ニ際シ世上露国ノ態度ニ付種種ノ風説行ハルルヤ在本邦露国大使「コップ」ハ同月十四日幣原大臣ヲ来訪シ露国政府ハ極東ニ於テ何等侵略的計画ヲ有セス又何等日本ノ利益ヲ侵迫セムトスル意図ナキコトヲ本国政府ノ名ニ於テ宣言スル旨ノ覚書ヲ手交シタルカ其ノ後十二月二十八日日本ノ満州出兵ニ関スル情報聴取ノ為メ再度来訪ノ際同大使ハ幣原大臣ニ対シ右覚書ニ対スル日本側回答中ニ日本モ亦露国ノ利益ヲ脅威スルカ如キ「アグレッシヴ」ノ企図ヲ有セサル旨ヲ明ニセラレサリシヲ遺憾トスト述ヘタルニ依リ大臣ハ露国側ヨリ日本側ノ宣言ニ付何等要求ナカリシニ依リ単ニ諒承ノ旨回答シタル次第ナル処日本ノ政策ハ特ニ宣言ヲ為ササルモ能ク了解シ居ラルルコト思考スル旨ヲ答ヘタリ

(ヘ)大正十五年一月二十二日露国外相「チチェリン」ハ日露ノ関係ハ露国政府ノ重要視スル所ナリトテ東支鉄道ニ関スル露支紛争問題ニ関スル日本政府ノ意向ヲ尋ネ且種々意見ヲ述フル所アリタルカ其ノ際「チチェリン」ハ今次ノ事件ハ露国トシテハ支那ニ対シ唯タ露支条約ノ尊重ヲ求メタルニ過キサル処露国カ南満ニ於ケル日本ノ地位ヲ尊重スルト同様日本ニ於テモ北満ニ於ケル露国ノ地位ヲ尊重セラルヘキヲ期待スト述ヘタルニ依リ田中大使ハ貴意了承委細本国政府ニ電報スヘシト答ヘ置キタリ

(ト)大正十五年一月二十二日「コップ」大使ハ「ジャパンアドヴァタイザ」紙ニ日露支三国ノ協同ニ関スル「ステートメント」「後段乙(編註)(ト)参照）ヲ発表シタルカ同大使ハ右「ステートメント」中ニ於テ露国ハ所謂勢力範囲復活ノ如キ思想ヲ排斥スルモノナリト言明セリ

（註、但右「コップ」言明ヲ以テ未タ露国カ本件勢力範囲復活ノ問題ヲ断念セルモノト解シ得サルコト前述ノ如シ）

(チ)大正十五年一月十九日在支露国大使館付武官「エゴロフ」ハ本庄少将ニ対シ「カラハン」ハ本国政府宛東支鉄道ニ関スル露支紛争解決ノ為メ同鉄道露国守備隊復旧方可然旨稟申セリト内話シタル上露国モ東支沿線ニ駐兵シ日本ノ満鉄守備兵ト相対シ日露ノ接近ヲ図ルコト満州ノ治安維持上有効ナリト思考スル旨ヲ語リタルカ其ノ後東支問題ニ関スル露支ノ紛争頂点ニ達スルヤ（一月二十三日）「チチェリン」ハ段執政宛通牒中ニ於テ支那政府カ三日ノ期間内ニ本件ノ平和的解決ヲ保障スル能ハサル場合ニハ露国ハ自己ノ兵力ヲ以テ条約ノ実施ノ保障及東支鉄道保護ニ当ルノ覚悟アル旨ヲ仄メカシタリ

編註　乙(二)ノ誤リ

乙、満州ニ関スル日露支殊ニ日露両国間ニ於ケル協定問題ニ関スルモノ

(イ)大正十四年十月十六日露都ニ帰朝中ナリシ「カラハン」ヨリ在露田中大使ニ対シ満州ニ於ケル無益ノ競争ヲ避クル為メ支那ヲ説キ日露支三国ノ会議ヲ開催シ度已ムヲ得スンハ表面東支ト満鉄トノ会議トナシ事実ハ三国政府ニテ協議スルコトトスルモ可ナル処右ニ関スル日本政府ノ意向承知シ度シトノ申出アリタル際政府ハ同大使ヲシテ前顕甲(二)勢力範囲復活問題ニ関スル我カ方ノ意向及左記諸項ノ趣旨ヲ体シ可然応酬セシメ置キタリ

1、形式ノ如何ヲ問ハス日露両国ノミニテ満蒙ノ鉄道並経済ノ問題ヲ議スルハ主権国タル支那側ノ疑惑ヲ招ク惧アルコト

2、支那カ鉄道敷設等ニ依リ満蒙開発ヲ行フハ外国既得ノ権利利益ヲ侵害セサル限リ支那ノ自由ニシテ外

国側ニ於テ掣肘ノ限リニ非サルノミナラス寧ロ奨励スヘキモノナルコト

3、広大且豊饒ナル満蒙ノ野ニ於テ各鉄道カ永遠ニ両立スルコトヲ得サルカ如キ事態ヲ見ルヘシトハ信セラレス尤モ一時的ノ現象トシテ日露両国関係鉄道間ニ競争起ルコトハアルヘキモ右ニ付テハ貨物ノ数量及運賃ニ関シ関係鉄道会社間ニ協定ノ途アルヘク必スシモ国際会議ヲ開催シ妄リニ内外ノ注意ヲ惹クノ要ナカルヘキコト

(ロ)大正十四年十二月十九日在本邦露国大使「コップ」満州出兵問題ニ関スル情報聴取ノ為メ幣原大臣ヲ来訪シタル際同大使ハ露国ハ極東ニ於テ何等攻勢的企図ヲ有セス露国ノ政策ハ日露支三国間ノ協調ヲ保持スルニ在リト述フル所アリタルニ依リ大臣ヨリ日本ハ露支両国ト協調ヲ保ツコトハ固ヨリ列国トモ協調ヲ保チ居レリト答ヘタル処「コップ」ハ自分ノ所謂日露支三国ノ協調ハ他ノ列国ヲ排除セムトノ意ニアラサルモノナル旨ヲ述ヘタリ

(ハ)大正十五年一月二十一日幣原外務大臣ハ第五十一議会ニ於ケル演説中露国ニ関スル部分ニ於テ日本ノ方針ハ総テノ列国ト表裏ナキ友情関係ヲ結フニ在リテ何レノ国トモ排他的ノ親善関係ヲ結フノ意思ヲ有スルモノニ非スト述ヘ更ニ邪推、偏見等ハ国交上殊ニ日露ノ関係上禁物ナリトテ所謂露国ノ北満州侵略計画説等ノ事実無根ナルコトヲ断言シ客年日露国交回復以来我カ方ト露国政府トノ間ニハ常ニ密接ナル接触ヲ保チ随時腹蔵ナキ報道及意見ノ交換ヲ行ヒツツアル旨ヲ披露シタリ

(ニ)大正十五年一月二十二日在本邦露国大使「コップ」ハ「ジャパンアドヴァタイザ」紙上ニ「ステートメント」ヲ発表シ過般（一月十五日）後藤子爵カ同紙上ニ発表セル日露支三国間ニ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行フヲ必要トストノ意見ニハ全然同感ニシテ若シ右後藤子ノ意見ニシテ日本政府ノ支持スル所ナルニ於テハ露国政府ハ之ニ「インターナショナルアクト」ノ形式ヲ与フルノ覚悟アリトテ日露支三国協同ノ必要ヲ力説シ且労農露国ハ極東ニ於テ何等侵略的意図ヲ有セサル処日本モ亦同様ナルヘシト述ヘタルカ最後ニ同大使ハ右ニ所謂日露支三国間ノ協同トハ何等他ノ諸国ヲ排除セムトスルモノニアラサルコト並支那ニ於テ勢力範囲ヲ設定セントスルカ如キ思想ハ絶対ニ之ヲ排斥スヘキモノナルコトヲ付言セリ

二一二　五月六日　在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ソヴィエトハ目下欧州方面ニ忙殺サレ極東ニ対シテハ積極的行動ヲ避ケ静観的態度ヲトル模様観察報告ノ件

第一六三号　（五月七日接受）

支那ニ於テ一時退嬰政策ヲ執ルト共ニ外交上ノ体面ヲ繕フ為当国政府ハ常套手段ニ依リ近頃欧州諸国トノ関係ニ注意ヲ向ケツツアルモノノ如ク第一着ニ露独条約ヲ締結シ次テ「バルチック」及「スカンヂナビヤ」諸国トモ同様ノ条約ヲ結フ為メ交渉シツツアルカ如シ此ノ種ノ条約ニ対スル当国ノ建前ハ往電第三号ニ報告スル通リ如何ナル国ト締結スルモ可ナリトセルモ国際連盟トノ関係並ニ露国ニ対スル疑惑ノ観念ヨリ各国共乗気ナラサルモノノ如ク只「リスアニア」ノミハ露国カ同国ノ旧国境ヲ再認スル事ニ依リ或ハ遠カラス条約ノ成立ヲ見ル可シトノ説アリ其場合ニハ波蘭トノ関係悪化ス可キモ通商条約ノ成立ニ依リ之ヲ緩和スルノ策ニ出ツ可ク次テ仏蘭西、英国トノ関係改善ヲ高唱シ米国トノ国交恢復ヲ図ルニ努力ス可ク之等ノ為メ欧州ニ於テ反動ヲ生シ当政府ハ之ニ忙殺サレ従テ支那方面ニ対シテハ暫ク積極的行動ヲ避ケ事態ノ推移ヲ注視スルノ態度ニ出テ日本トノ関係モ特ニ日本側ヨリ挑発セサル限リ現在ノ親善的標榜ノ下ニ進マントスルモノト認メラル

右ニ就テハ尚引続キ注意中ナルモ今日迄ノ観察御参考迄

全欧米各大使ヘ転電セリ

二一三　七月十四日　在ハルビン天羽総領事ヨリ幣原外務大臣宛

当地新聞ニ現ハレタルコップ大使ノ談話報告ノ件

機密第五三六号　（七月二十四日接受）

大正十五年七月十四日

在哈爾賓

総領事　天羽　英二（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

「コップ」大使ノ談話ニ関スル件

「コップ」大使ハ奉天「クラコヴェツキー」総領事及「ヴォルフ」大使館書記官ヲ伴ヒ去ル十一日当地着本十四日夜ノ列車ニテ同夫人及「セレブリヤコフ」交通委員部次長ト共ニ莫斯科ニ直行ノ予定ナルカ昨十三日発行ノ共産党機関紙「エホ」ハ別紙訳文甲号ノ如キ同大使ノ日蘇関係談話ヲ掲ケ又別紙訳文乙、丙号ノ通本日発行ノ赤系「ノーヴォスチ・ジーズニ」紙ハ同談話ニ基ク日蘇親善論ヲ高調シ白系「ザリヤ」紙ハ同大使ノ数日ニ亘ル滞哈事情ノ真相ニ関スル論説ヲ掲載セリ右取敢ヘス電報セルモ御参考迄送付ス

尚「コップ」大使ハ滞哈中絶対ニ新聞記者トノ会見ヲ避ケ居リ右談話モ同大使ノ近辺者（恐ラク「ヴォルフ」書記官ナラム）ノ談話トシテ掲載サレタルモノナリ

本信写送付先　在露大使

（別　紙）

「甲号」

「コップ」大使ノ談話

労農大使館ノ事務ハ目下甚タ円滑ニ捗リツツアリ大使館ト日本外務省トノ関係モ外観内容共ニ良好ニシテ両者間ノ問題ハ凡テ渋滞ヲ来ササルノミナラス迅速ニ解決サレ其結果ニ対シテハ両国共ニ満足シ居リ且両国ノ利益ハ保持サレツツアルナリ

日本政府当局ハ屢々館員ニ向ヒ露国側ノ誠意アリ率直ナル態度気ニ入レリト殆ント御世辞ニ近キ言ヲ発ツカ吾人ハ現実ニ於テ平和的ニシテ毫モ野心ヲ含マサル誠意アル政策ヲ施ス点ニ於テハ世界広シト云ヘトモ「ソ」連邦ノ右ニ出ツルモノナキコトヲ日本ニ示セリ

日本ノ一般社会ハ「ソ」連邦社会ニ於ケル知名ノ士文学芸術乃至同国ヲ訪ツレタル各代表者ヲ大ニ歓迎シ居リ最近日本ヲ去レル文豪「ベ・ピリニャック」ノ如キハ社会ヨリ稀有ノ歓待ヲ受ケ同人ノ為ニハ幾多ノ宴張ラレ其論文実話印象記ハ新聞ニ掲載セラレ彼ノ物セルモノハ凡テ日本語ニ翻訳セラレ居ル有様ナルカ只茲ニ一ツ疑ヒ深キ警察ノ無益ナル尾行ノ為ニ此ノ露西亜文壇ノ暁星ニ対シ同国人各階級ノ寄セタル同情心ニ一抹ノ暗影ヲ投シタルカ如キ感ヲ抱カシメタルハ遺憾ナリ但此警察ノ尾行振ニ対シテハ政府当局サヘ非難シ居ルハ吾人ノ満足スル所ナリ又露西亜芸術界ノ代表者等モ日本人ヨリ大ニ歓迎サレ「イルマ・ヤウンゼン」ノ演奏会ハ非常ナル好評ヲ博シ「コヴァリヨーフ」博士ノ「コンサート」亦多数ノ聴衆ヲ引付ケタリ

斯ノ如キ日本人ノ「ソ」連邦社会及芸術家ニ対スル態度ハ両国親善ノ向上ヲ物語ルモノト謂フヘク這ハ単ナル興味ニ非スシテ日蘇間ノ関係ノ鞏固トナレルモノナリト公言スルヲ得ヘシ

更ニ最近「ソ」連邦就中極東露領ニ数個ノ視察団来リ而モ其中ニハ実業家ノミナラス社会ノ有力者学者及学生アリ多数ノ日本人カ連邦ヲ訪レツツアル事実ハ亦両国親善関係増進ノ一証左タラスムハ非ス

次ニ両国間ノ通商取引亦円滑ニ行ハレ居リ大使館ハ月ヲ重ヌル毎ニ事務ヲ拡張シツツアリ日蘇貿易ノ大宗ハ木材ノ輸出ト魚類ノ輸入ナルカ最近ニハ其他諸種商品ノ大口取引亦行ハレツツアリ

兎ニ角日本大会社筋トノ取引関係モ良好トナリタル為今後両国ノ貿易ハ大ニ発展シ両国ハ共ニ経済的利益ヲ享クルコトトナラム最近日本ノ樺太石炭会社ノ創立完全ニ終リ四百五十余名ノ日本人炭坑夫同地ニ向ヘリ

要之今後両国通商関係ヲ増進鞏固ナラシムル上ニ於テ必要ナルハ相互ノ利益関係ヲ諒解スルコト並両国ノ接近ハ経済的利益ヲ齎スモノナルコトヲ了解スルコトナリ

最近哈爾賓ニ在ル日本ノ一電報通信社ハ東京ニ利権特許局ノ設置サルヘキ旨ヲ伝ヘタルカ這ハ一ケ年余モ遅レタル報道ト謂フヘシ蓋シ大使館内ニハ極東露領ニ於ケル利権事務ヲ取扱フ東京利権委員会ナルモノ既ニ存在シ居レハナリ兎ニ角日本社会ノ穏健誠意アル態度凡ユル問題ニ対スル妥協的態度並日蘇両国間ニ於ケル通商関係ノ良好ニ発達シツツアル事実ヲ惟フトキハ既ニ両国間ニハ完全ナル親善関係設定サレ更ニ将来益々鞏固トナルヘキヲ信シテ疑ハス尚一時日本ヲ去ルニ際シテハ盛ンナル見送リヲ受ケ且途中ニ於テモ遺憾ナク便宜ヲ蒙レリ云々

「乙号」

関係ハ生長シツツアリ

七月十四日発行「ノーヴォスチ・ジーズニ」紙

「コップ」大使ノ声明ニ依レハ蘇連大使館ト日本外務省トノ関係ハ極メテ良好ニシテ凡ユル問題ニ対シ日本ハ妥協的態度ニ出テ一般日本社会亦誠意ヲ示シ居リ且両国ノ通商関係ハ迅速ニ発展シツツアリト言フカ両国民ノ親善関係ヲ鞏固ナラシムル上ニ於テ之レ以上何ヲ必要トセム本吉報ハ蘇

連人ニヨリ大ナル満足ヲ以テ迎ヘラルヘシ
顧ルニ日本ハ往時西伯利出兵事件ノ主要ナル共犯者ニシテ之ニ対スル露人ノ悪印象ハ其ノ脳裡ニ深ク刻マレ居レルカ此ノ過去ノ印象ハ現時ノ両国親善ニヨリ棒引サレタリト言フヘシ
次ニ日本ニハ日露親善ヲ色眼鏡ヲ以テ眺ムル分子アリト雖モ之ヲ以テ「コップ」大使ノ齎セル吉報ニ暗雲ヲ投セントスルモノニ非ス
此種分子ハ過去ノ功績ニヨリ今日尚大ナル勢力ヲ擁スルモ彼等ニシテ今日両国親善ノ設定ヲ妨害シ得サル以上将来益益緊密ノ度ヲ加ヘ来ルヘキ右親善ヲ干渉破壊セムトスルコトハ尚更困難ノコトナリ
両国現時ノ良好関係設定ニ貢献セルハ経済的利益ニ外ナラス日本人ハ賢明ニシテ実際家ナルヲ以テ蘇邦カ貪欲ニ非ス且侵略的野心ヲ有セサルコト明瞭トナリ更ニ之ト通商ヲ行フコトノ有利ナルコトヲ覚ル以上蘇連ノ国体観念等ニハ介意スル処ナカルヘシ
宣伝革命化問題等日本実業家ヲシテ若干躊躇セシムルモノアルモ蘇連トハ円満ニ取引シ利益ヲ享受スヘキモノナリト

ノ原則ハ之ニヨリ毫モ影響ヲ受ケ居ラス
日本人ハ斯ク観察シ居リ同政府ノ親善政策亦之ニ端ヲ発ス云々

「丙号」
哈爾賓ニ於ケル「コップ」
七月十四日発行「ザリヤ」紙
駐日「コップ」大使カ哈爾賓ニ滞在セルハ当然ノコトナリ蓋シ彼ハ東京ニ在リテモ主トシテ支那問題ノ審議ヲ事トシ哈爾賓ニモ幾多ノ研究問題介在シ且日蘇関係ノ複雑セル現状ニ於テハ支那ニ対スル両国政府ノ政策カ大ナル意義ヲ有スルヲ以テナリ
如何ニモ彼ハ日本ヨリモ多ク満州問題ニ没頭セリ元奉天総領事ヲ駐日「ソ」大使館一等書記官トナセルカ如キモ此ノ間ノ消息ヲ物語ルモノト言フヘシ云々

二一四　七月二十五日　在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛
日ソ両国ノ経済関係ニ関スルコップ大使ノ会見談報告ノ件
公第一九四号　（八月十七日接受）

大正十五年七月二十五日
在ソヴィエト連邦
特命全権大使　田中　都吉（印）
外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

日「ソ」両国経済関係ニ関スル「コップ」大使ノ会見談報告ノ件

在本邦「ソ」連邦大使「コップ」氏ハ「セレブリヤコフ」氏ト同道七月二十二日帰莫セルカ「フィナンソヴァヤ・ガゼータ」紙記者ニ対シ大要左記訳文ノ如キ「インターヴュー」ヲ与ヘタル旨七月二十四日ノ同紙ニ掲載セラレタリ右報告ス

記

北京条約締結後日「ソ」両国ノ関係ハ至極順調ニシテ右条約ニ予見セラレタル各種ノ問題ハ締結後ノ過去一年間ニ於テ解決セラレタリ実例ヲ挙クレハ「サハレン」利権ノ如キ之ニシテ予ノ東京出発数日前同利権ノ為ノ労働者及技師「サハレン」ニ到着セリトノ報道アリタリ又目下日本当業者ハ右利権ニ於ケル労働ノ調節ニ関スル交渉ヲ行ヒツツアリ漁業交渉モ解決ニ近ツキツツアリ凡ユル争点ニ就キ殆ト

完全ナル協定ヲ見タルヲ以テ条約ノ調印モ近ク行ハルヘキコトヲ確言スルヲ得
極東ニ於ケル日本人ノ利権事業ハ著シキ成功ヲ収メタリ日本ハ森林魚類等「ソ」連邦ノ原料ヲ必要トシ「ソ」連邦ハ日本ヨリ織物、薬品其他原料ヲ購入ス最近日本ハ殊ニ織物工業ニ於テ大ナル進歩ヲナセリ日本カ極東地方ノ発達ニ興味ヲ有スル証拠トシテハ日本人カ林業利権、採金利権等ヲ得タルコトヲ挙クヘシ両国ノ通商関係ハ東京ニ「ソ」連邦ノ通商代表部ヲ設ケタル以来殊ニ発達セルカ之ト同時ニ日本ニ於テ「ソ」連邦ノ文化及生活ニ対スル興味増進シ来レリ
尚極東三国ノ関係ニ就キ一言スレハ最近南満、東支、烏鉄ノ三鉄道ノ間ニ運輸及建設ノ問題ニ就キ交渉開始セラルル筈ニシテ「セレブリヤコフ」ハ本件ニ関シ東京ニ於テ予備交渉ヲナシタリ
要之日本政府及輿論ハ共ニ極東ニ於テ安定セル平和ヲ維持スルニハ「ソ」連邦ト親交ヲ計ラサルヘカラストノ自覚ヲ大ニシツツアリ之レ両国ノ政治上及通商上ノ関係カ将来共円満ニ発達スル保障ナリ

二一五　九月二十五日　在ソ連邦田中大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ソ連邦外務部ソノ他ノ有力者トノ会見ヨリ得タル印象ニツイテノゾルフ大使ノ内話報告ノ件

第四三五号

帰国ノ途当地滞在中ノ「ゾルフ」大使カ外務部其ノ他ノ有力者ト会見ノ印象ナリトテ本使ニ内話セル所ニ依レハ先ツ日露関係ニ於テハ当国政府ハ日本ト張作霖トノ関係ヲ誤解シ又日本ノ次ノ政変ヲ危惧シ予テ日露支間満州鉄道問題ノ協定ヲ希望セリ等総テ従来本使報告ノ通リヲ語リ次ニ一般問題ニ付テハ露国ハ内治外交トモ重大ナル困難ヲ嘗メツツアリ当局者ハ此レカ対策ニ窮シ居レルモ共産党ノ内訌ハ主義主張ノ相異ヨリモ寧ロ権勢慾ニ基ケリ従テ政府ノ顔触レハ多少変更アランモ政治ノ遣リ口ニハ改変ナカルヘシト云ヒ第三「インターナショナル」ノ勢力ハ失墜シツツアリ将来恐ルルニ足ラスト述ヘ露国ノ深患ハ政治的ヨリモ経済的ニシテ此レカ経済ハ第一ニ外国貿易国営ヲ抛棄スルニアルモ目下之ヲ為スカ如キ傾向見エスト云ヒ是レ亦本使ノ観察及報告ト同様ナリ尚ホ「カーメネフ」日本ニ任命ニ付先方ノ問ニ対シ右ハ「コップ」カ好評ナリシタケ日本ニテハ不評ナルヘク日本政府ハ「アグレマン」ヲ与ヘサルヤモ知レスト述ヘ置キタルカ「カーメネフ」任命ハ断念セルモ「コップ」ノ帰任ハ未定ナルカ如シト語レリ

二一六　十月九日　在ノヴォ・シビルスク島田領事ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ノヴォ・シビルスク通過ノカラハンノ内話報告ノ件

第三二号　（十月十日授受）

十月九日当地通過ノ「カラハン」ハ本官ニ対シ実ハ後藤子爵ヨリ日本ヘ来遊ヲ所望セラレタルモ右ハ少クモ二週間ヲ要スヘキニ付之ヲ見合ワセタリ莫斯科ニハ約五、六月止マルヘク其後ハ不明ナリ漁業会議ニ関与スルカ如キハ真平御免ナリト内話セリ

在露大使ヘ転電セリ

二一七　十一月三日　幣原外務大臣ヨリ在ソ連邦田中大使宛

日ソ間ノ国交ニ関スル在本邦ソ連邦代理大使ト出淵次官トノ会談要領送付ノ件

欧一機密第三四一号（機密）

在本邦「ソヴィエト」連邦代理大使ト出淵次官トノ会談要領送付ノ件

貴電第四五九号ニ関シ

本年九月三十日在本邦「ソヴィエト」連邦代理大使ト出淵次官トノ間ニ為サレタル会談要領別紙ノ通貴官御参考迄ニ送付ス

（別紙）

大正十五年九月三十日出淵次官ト「ベセドフスキー」「ソ」連邦代理大使トノ会見要領

次官

先般蟹工船問題ニ付会見シタル際代理大使ヨリ此種問題並満州問題等ノ解決ノ為露独条約ノ如キモノヲ締結シ両国委員ヨリ成ル委員会ヲ組織スルコトトシタキ旨ヲ述ヘラレ其ノ後該条約ヲ送リ越サレタルニ依リ之ヲ閲読シタルニ何等委員会ノ設置ニ関スル規定ナキトコロ之ニ関スル貴見ヲ承ハリタシ

代理大使

前回ニハ両国間ノ紛争事件ヲ解決スル為ニハ露独条約ノ如キモノヲ締結シ具体的方法トシテハ委員会ヲ組織シテ之ニ当ラシムルコトトシタキ旨ヲ述ヘタル次第ナリ

次官

目下両国間ニ此種条約ヲ締結スルノ時期ニアラスト思考ス両国間ニ基本条約ノ締結セラレタルハ漸ク昨年ノコトニシテ其ノ後該条約ノ規定ニ基キ石油及石炭ニ関スル利権契約締結セラレ目下漁業協約改訂ノ商議中ニアリ又近キ将来ニ於テ通商条約締結商議ノ運トモナルヘシ依テ此等ノ条約締結セラレタル後初テ露独条約ノ如キ政治的性質ヲ有スル条約締結ノ如何ヲ考慮スルコトト致シタシ

代理大使

該条約ノ締結ハ目下其ノ時期ニアラストノ御説ナラハ致方ナシトスルモ私ハ「チチェリン」氏ヨリ両国間ノ友好関係ノ緊密ヲ計ルカ為此種条約締結ノ商議ヲ為スノ権限ヲ賦与セラレ居ル次第ニテ貴国カ我国ニ対シ何等カノ要求アラハ喜ンテ我政府ニ伝達シ之カ円満ナル解決ノ労ヲ執ルヘシ